

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和5年5月16日

(宛先) 松本市長 臥雲 義尚 様

提出者

住 所 長野県松本市安曇4160-2

氏 名 サウンド建設株式会社

代表取締役 川上 隆英

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0263-93-2810

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	サウンド建設株式会社
事業場の所在地	長野県松本市安曇4160-2
計画期間	令和5年4月1日 から 令和6年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	総合工事業
②事業の規模	完成工事高 515,962,575円
③従業員数	35人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	<ul style="list-style-type: none"> ・がれき類・・・再生処理業者へ委託 → 再生砕石として再資源化 ・木くず・・・再生処理業者へ委託 → 木材チップとして再資源化 ・金属くず・・・再生処理業者へ委託 → 破碎後に再利用 ・廃プラスチック・・・認定処理業者へ委託 ・建設汚泥・・・再生処理業者へ委託 → 改良土として再資源化 ・コンクリートくず・・・再生処理業者へ委託 → 再生砕石として再資源化

(日本産業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

- (管理体制図)
- 環境管理責任者・・・廃棄物処理統括責任
 - 施工部長・・・廃棄物に関する必要事項及び改善策の検討
 - 作業所長・・・産業廃棄物の適正処理責任者
 - 施工事務・・・委託契約書、マニフェスト伝票の管理
 監督官庁への計画書、報告書の作成
 - 環境管理室・・・社員への廃棄物に関する教育訓練の実施

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】 別紙の通り		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組) ・ 廃棄物の排出抑制に考慮した工事方法の検討。 ・ 廃棄物の分別を強化して排出抑制に努める。 ・ 木製型枠等の再利用、伐採木の再利用提供を実施。		
②計画	【目標】 別紙の通り		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・ 現状維持		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 小規模ストックヤードにおいて、金属、廃プラ、木くずに分別し保管する。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 産業廃棄物の種類は作業所毎に変わるので、その都度きちんと分別する。 ・ スtockヤードに保管されている物は排出時に再度分別を行い、再利用・再資源化の徹底を図る。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 4 年度）実績】 別紙の通り	
	産業廃棄物の種類	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t
	(これまでに実施した取組) ・実施していない	
②計画	【目標】 別紙の通り	
	産業廃棄物の種類	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t
	(今後実施する予定の取組) ・実施予定なし	

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 4 年度）実績】 別紙の通り	
	産業廃棄物の種類	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t
(これまでに実施した取組) ・実施していない		
②計画	【目標】 別紙の通り	
	産業廃棄物の種類	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t
(今後実施する予定の取組) ・実施予定なし		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 4 年度）実績】 別紙の通り	
	産業廃棄物の種類	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t t
	(これまでに実施した取組) ・実施していない	
②計画	【目標】 別紙の通り	
	産業廃棄物の種類	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t t
	(今後実施する予定の取組) ・実施予定なし	

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】 別紙の通り	
	産業廃棄物の種類	
	全処理委託量	t t
	優良認定処理業者への処理委託量	t t
	再生利用業者への処理委託量	t t
	認定熱回収業者への処理委託量	t t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t t
	(これまでに実施した取組) ・ISO14001産業廃棄物の適正処理手順及び産業廃棄物3R実践協定の計画書に基づき、再生利用業者への委託、法の順守による適正処理の確保。 ・処理状況の現地確認。	

②計画	【目標】 別紙の通り	
	産業廃棄物の種類	
	全処理委託量	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t
	再生利用業者への 処理委託量	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t
	(今後実施する予定の取組) ・産業廃棄物に係る当社システムの確実な運用。 ・委託先処理業者の現地確認を継続。	
※事務処理欄		

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

【令和5】年度産業廃棄物処理計画書（産業廃棄物の実績及び計画の量）

（単位：t）

「実績」欄：前年度産業廃棄物排出量

「計画」欄：当年度産業廃棄物排出量の目標値

産業廃棄物の種類	総排出量 (※)		自ら再生利用を行った(行う)量		自ら行う中間処理				処理の委託に関する事項												
					自ら熱回収を行った(行う)量		自ら中間処理により減量した(する)量		自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った(行う)量		全処理委託量		優良認定処理業者への処理委託量		再生利用業者への処理委託量		認定熱回収業者への処理委託量		認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		
	自ら直接再生利用した量等を含めた事業場における産業廃棄物の合計量		自ら直接再生利用する量と自ら中間処理を行った後に再生利用する量				中間処理前の量から中間処理後の量を引いた量		自ら直接埋立・海洋投入処分する量と自ら中間処理した後に自ら埋立・海洋投入処分する量		自社内で処理を行わず直接委託した量と自ら中間処理した残さのうちの処理業者に委託して処理する量		優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)		中間処理後、有効利用されている場合の委託量(委託先から別の業者に売却等される場合を含む。)		認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理に関する法律第15条の3第1項の認定を受けた者)		認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量		
	①	②+⑧	⑤		⑦		③+⑨		⑩		⑪		⑫		⑬		⑭				
実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画		
1 燃え殻																					
2 汚泥	1.28	1.00										1.28	1.00			1.28	1.00				
3 廃油																					
4 廃酸																					
5 廃アルカリ																					
6 廃プラスチック類	5.85	5.00										5.85	5.00	5.85	5.00						
1 紙くず																					
2 木くず	35.21	35.00										35.21	35.00	18.16	30.00	17.05	5.00				
3 繊維くず																					
4 動植物性残さ																					
5 ゴムくず																					
6 金属くず	4.59	4										4.59	4			4.59	4				
7 ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	9.1	10										9.1	10			9.1	10				
8 鉱さい																					
9 がれき類	1,794.02	1,750.00										1,794.02	1,750.00	1.35		1,793.67	1,750.00				
10 家畜ふん尿																					
11 家畜の死体																					
12 動物系固形不要物																					
13 ばいじん																					
14 処分するために処理したもの																					
合計	1,851.05	1,805.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1,851.05	1,805.00	25.36	25.00	1,825.69	1,780.00	0.00	0.00	0.00	0.00

※ 総排出量=自ら再生利用を行った(行う)量+自ら中間処理により減量した(する)量+自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った(行う)量+全処理委託量

【記載方法】

- ・産業廃棄物の種類ごとに、当てはまる欄の左側に前年度実績(現状)の量を、右側に本年度計画(目標)の量を、それぞれ記載してください。
- ・「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、「全処理委託量」欄へ記入した後、右欄にそれぞれの量を記載してください。
- ・「自ら再生利用を行った(行う)量」の欄は、「自ら直接再生利用した量」と「自ら中間処理した後再生利用した量」を合算して記載してください。
- ・「自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った(行う)量」は、「自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量」と「自ら中間処理した後に自ら埋立処分又は海洋投入処分をした量」を合算して記載してください。